

平成 28 年度第 2 回新市建設計画審議会 会議録

日 時 平成 29 年 2 月 21 日 (火) 午前 10 時 30 分～午後 12 時 10 分

場 所 保原本庁舎 2 階特別会議室

出席者 新市建設計画審議会委員 18 名

市長、副市長、教育長、市長直轄理事、総務部長、地域振興対策政策監、財務部長
健康福祉部長、産業部長、建設部長、教育部長、こども部長、市長直轄参事
健康福祉部参事、各総合支所長、
(事務局) 総合政策課

(1) 平成 29 年度新市建設計画の実施事業の内容について・・・事務局より説明

委員：

資料 1 では、「市民満足度の向上」との表記があるが、具体的な項目や指標となるものはあるのか。第 2 次総合計画で示されている指標との関連性がみえれば、具体的に把握できると考える。

事業費の増減は資材費の高騰が主な要因であるとのことだが、その他の要因にはどのようなものがあるか。また、その増額への対応は。

事務局：

新市建設計画の各事業は、第 2 次総合計画で謳っている将来都市像と関連してくるもので、第 2 次総合計画自体が目標と指標を掲げている。それらは広い意味で「市民満足度の向上」に関連する目標を持っている。そういったところで新市建設計画の効果というものを検証していきたい。

全体事業費として増額している部分には、適債性の有無により合併特例債を充当できない部分があるということ。ただし、事業を執行していく上では必要な経費であるので、市全体の財政状況を鑑みながら手当てしていきたい。併せて事業費の補てん、削減についても検討していきたい。

直轄理事：

新市建設計画の実施事業はハード事業ということにはなるが、各個別の事業が第 2 次総合計画のどの施策に関連するものなのか、また、箱モノとして作るだけではなく、その後どのように展開していくかが重要であるので、今後わかりやすく示せるようにしたい。

委員：

事業 No.16 健幸福社センター建築について要望します。建物の整備だけでなく、健康づくりにつながる市民が気軽に使える健康器具などを整備して欲しい。

事業 No.19 白根地区の整備事業はモデル地区として整備しているということだが、モデル地区という形は地元にとってもハードルが高い。市全体に展開するならば、こういった形はとらなくても気軽に使えるものとして整備して欲しい。

委員：

事業 No.16 梁川亀岡八幡宮の広場では、地元女性部がテントを張って地元製品の販売をしているが、強風への対応など苦慮している。商工観光課にも販売小屋の整備を要望しているが、実現には至っていない。今後の対応について伺いたい。

産業部長：

梁川八幡神社周辺整備事業は、国の史跡指定を優先させており、指定を受けるまでは事業をストップしている状況。今後、きちっとした整備を進めたいと考えている。物販用の小屋についても話は聞いて

いたが、どのくらいの誘客が見込めるか、どのようなものを日常的に売っていくのか、そういったことも地元と話さなければならないので、今後、整備計画全体の中で検討したい。

委員：

高子駅北側開発は魅力的な地域になると思う。現在の進捗などお伺いしたい。また、事業No.21 保原総合公園整備のパークゴルフ場整備も興味深い。今後の整備方針についてお伺いしたい。

建設部長：

高子駅北側開発については、土地区画整理事業として準備委員会も立ち上げて進めており、併せて実際に事業を行う事業者、業務代行者と市でパートナーの協定を結んだところ。早ければ平成30年くらいから分譲が開始されるだろうということで、着実に進んでいる。

保原総合公園の拡張については、駐車場の拡張ということで整備計画が立ち上がったが、駐車場の整備だけでは、国の補助金も受けられないし、都市計画決定も得られない。そういったこともあり、イベント広場であったりパークゴルフ場であったり臨時駐車場としても使用できるグラウンドの整備を盛り込んで、公園らしい整備計画としてきたところ。それに伴って事業費も拡大してきた。パークゴルフ場は36コースを考えている。今年度から新年度にかけて造成工事も始まる。

全体で約6haと広大でもあるので、全体の整備完了まではもう少し時間を要すると考えている。

委員：

事業No.3 月館地域交流施設整備事業は2年間で約8億という事業費であるが、具体的に何がどのように進むのか教えてほしい。また、クラインガルテンの規模はどの程度になる見込みか。

月館総合支所長：

平成28年3月に策定した月館地域振興基本計画に基づき進めているところ。まちなかの賑わいづくりと花工房周辺整備を進め、地域の活性化を図っていくこととしている。具体的には小手小学校の改修、花工房とグラウンド整備、農業体験としてクラインガルテンの整備を予定している。クラインガルテンは滞在型宿泊施設1区画300㎡程度として3区画を予定。付随する農園を含めると全体で1.0ha～1.3haの規模で、小手小学校西側の区域を考えている。

委員：

要望ですが、これまでの地域審議会は20名の委員×5地区で、100名の委員に周知してきたことになる。現在の委員は20名ということになるので、幅広く市民に知ってもらうような取り組みが必要と思う。

直轄理事：

これまでは各地域に審議会を設置してきたが、この審議会は新たな10年という立ち位置で設置した。委員の皆さんからも引き続きいろいろな意見をいただきたい。また、幅広く知ってもらおうということに対して配慮していきたい。

委員：

事業No.10 霊山高原構想についてお伺いします。子どもの物語ミュージアムの運営主体は決定しているか。

地域振興対策政策監：

霊山こどもの村は指定管理で運営しているが、新たな施設はどのような管理運営が良いか現在のやり方も含めて検討していきたい。

委員：

民間への委託も含めて検討するということか。

地域振興対策政策監：

そういったことも含めて、運営上、一番好ましい形を検討していきたい。

委員：

民間の経営的な視点でいうと、ツアーを実施するとか、集客、採算性も大事で、魅力ある事業として期待したい。

市長：

ただ今のご指摘は非常に重要と思う。この事業は京都造形大学の目黒教授に構想などをお願いしていて、こういったものは行政の力だけでは良いものはできないと思う。霊山高原構想に基づき子どもの健全な育成に資するような施設にしようと考えている。こどもの村は長い歴史があるが、新しい観点で仕掛けようというもの。市内、県内だけでなく全国の子どもたちに来てもらえるような施設として期待している。遊びと学びのミュージアムと連携して、子どもの成長だけでなく、それに関わる人たちの拠点となるような施設を目指したい。

このことを踏まえ、誰が運営するのかということになると、そういった理念を理解している人や団体などが選択肢の一つになると思う。現在はそこまでの議論は行っていないが、ミュージアムの運営に相応しい団体に任せたいと思う。

委員：

事業No.18 健幸総合福祉センターについて伺います。この施設は市内1箇所を考えているのか、それとも各地区に設置するような計画で考えているのか。

事業No.19 白根地区健幸拠点整備は、白根小学校の廃校後の利活用であると理解してよいか。梁川地区の他の廃校予定の小学校の利活用についても、今後予算であるとか事業費が措置されるものと理解してよいか。

健康福祉部参事：

健幸総合福祉センターは具体的な建設予定地などは検討段階である。「総合福祉」を謳っており、建設は市内に1箇所である。

白根地区は平成23年度から健幸都市モデル地区として、地域の方々とお話をさせてもらっている。廃校になるから利用しようというのではなく、白根地区とこれまで議論してきたものを健幸づくりの拠点として形にするものとして理解いただきたい。

委員：

梁川地区の他の廃校になる4校は、利活用の方針が決まれば新市建設計画として追加されると理解してよいか。

市長：

白根地区は全く新しい施設を作るということであり、学校を使うというのが前提ではない。白根地区にどういうものを作るかというのはこれからのことで、学校を全く使わないということでもなく、あくまで健幸都市の拠点として事業を実施するもの。他の小学校をどうするかという議論はまた別のものがあるということをご理解願いたい。

会長：

審議については以上となる。新市建設計画はハード事業という立て付けではあるが、施策としてはソフト事業も関連するので、円滑に審議が進むよう資料の見せ方など工夫されたい。

～以上、閉会～

